

企業にメリットが大きい障がい者アスリート雇用 マッチングから雇用後の マネジメントまでサポート

2012年より障がい者アスリート雇用支援を手掛けているつなひろワールド。トップアスリートを中心に約180件のマッチングを成功させてきた。その背景には、企業と障がい者アスリート双方にとって幸せなマッチングを目指した丁寧な対応と雇用後もきめ細やかにサポートする体制、そして障がい者アスリートと混じり合う社会の実現を目指したいとの想いがあった。



株式会社つなひろワールド



体験会・講習会



協賛

企業情報

株式会社つなひろワールド

【所属人数】8名
【住所】東京都千代田区神田佐久間
河岸84 サンユウビル502
【電話】050-3513-6894(代表)
【URL】<https://www.tsunahiro.com>



Glitters

記事内にも紹介があった株式会社つなひろワールドが運営、発行するメディア。障がい者アスリートたちの世界選手権での活躍を描いた特集や迫力あるビジュアルで綴る新感覚のマガジン

【URL】<https://www.glitters.jp>
【運営】株式会社つなひろワールド



障がい者アスリート雇用は、 視野を広げて検討を



会場で日本代表を応援する竹内社長(中央)

「障がい者スポーツ支援は多様で、何から始めるべきか迷う企業は少なくありません。そのファーストステップとして、障がい者アスリートの雇用がおすすです。」と、竹内圭代表取締役社長は語る。実際、企業は、障がい者アスリートを雇用すると

経済的負担がかかる。

しかし、競技に打ち込む障がい者アスリートが入社し、その活動を社員が一丸となって応援すれば、一体感が生まれ、社員のモチベーションや帰属意識の向上も十分期待できる。さらに、自社の社名を背負った選手が国内外の大会で活躍してメディアに露出する機会が増えれば、広報的な価値は計り知れない。

近年、障がい者アスリートの雇用を希望する企業が増加しており、トップ選手はもちろんのこと、次世代の選手等の雇用も増えているという。障がいが多様であるのと同様、障がい者スポーツも非常にバラエティに富むため、視野を広げて雇用を検討したい。

障がい者アスリートを支えるために、 雇用後に大切なこと

雇用後の、受け入れ態勢を整えることも大切である。彼らが競技に打ち込める環境を求めているのは間違いないが、ただ競技ができればいいと考えているわけで

もない。企業に所属するからにはその企業の一員であるという実感がほしい、企業や同僚のためにがんばりたいと思っている。



竹内社長

「観戦などを通じて競技活動を応援してあげてほしい。」と、竹内社長は語る。とはいえ、いきなり全社を挙げて、と力む必要はない。イントラネットなどを通じて障がい者アスリートの活躍ぶりを紹介しながら、徐々に社内に応援の輪を広げていく例が多い。最近では、参加者を募って応援に行く企業も増えている。同僚が戦う姿に社員が刺激を受け、応援に行ってきたとの声もある。また、煩雑になりがちなマネジメントに戸惑うケースもあるという。障がい者アスリートの勤怠・スケジュール管理やメディア対応などの広報業務、活躍次第では勤務体系の見直しや海外チームへの移籍なども発生するため、それなりのノウハウが必要となる。同社にも設立当初からそうした相談が寄せられたため、2014年から「アスリートマネジメントサービス」を提供。企業と障がい者アスリート双方から高評価を得ている。



車椅子ソフトボールチーム「Glitters」の皆さん

発掘・育成、就労、そして引退後まで 支援の幅をもっと広げたい

同社は、障がい者アスリートが活躍する姿を伝え続けたいと、障がい者スポーツ専門メディア『Glitters』を創設。WEBとSNS、そして雑誌を通じ、国内外の障がい者スポーツ大会で躍動する選手たちの様子をその成績いかににかかわらず発信している。また、そのメディア名を冠した車椅子ソフトボールチーム「Glitters」も立ち上げた。



車椅子ソフトボールは、健常者と障がいのある人が一緒にプレーして大会にも出場できる競技。この車椅子ソフトボールチームを起点に、障がい者アスリートをもっと幅広く支援する場を作り、障がい者スポーツ界全体を盛り上げていきたいと竹内社長は語った。

コロナ禍における取組・今後の方向性

コロナ禍で働き方が変わりつつある今、当社も積極的にリモートワークを取り入れ、オンライン面談などを行っている。マネジメントサービスについても、企業との連携を強化し、アスリートが安全第一で活動できるような環境づくりを行っている。また、車椅子ソフトボールチーム「Glitters」も感染症対策を講じながら、活動を再開し始めた。